

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	卒業研究（Graduation Thesis）		
ナンバリングコード	P41703	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 総合レベル ゼミナール
単位数	6	配当学年 / 開講期	4 年 / 通年
必修・選択区分	必修		
	※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	P170314	クラス名	松原研究室
担当教員名	松原 かおり		
履修上の注意、 履修条件	本授業は、担当教員のゼミナールに所属する学生を対象とする。		
教科書			
参考文献及び指定図書	『はじめての論文作法』著者：戸田山和久（とだやま かずひさ）出版社：筑摩書房 『論文の教室―レポートから卒論まで』著者：戸田山和久 出版社：NHKブックス 『コンセプトの教科書 あたらしい価値のつくりかた』細田高広（著）出版社：ダイヤモンド社		
関連科目			

○基本情報		
授業の目的	本授業は、情報メディア学科デザインコースで培った知識・技術・思考力を統合し、創造的かつ論理的な研究活動を通じてその成果を社会に提示することを目的とする。学生は、これまでに学んだデザイン思考、メディア表現、ユーザー理解、社会的課題への洞察といった要素を基盤に、自ら問いを立て、調査・制作・分析・記述を重ねながら、自律的に探究を進める。最終的には、論理性と創造性を兼ね備えた卒業論文および関連成果物を通じて、専門性と社会性を両立した提案を行うことを目指す。	
	本授業は、情報メディア学科デザインコースの学びを総合的に展開する卒業研究科目である。学生は、興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、指導教員の助言のもとで、情報収集、制作・実験、分析、論述、発表に至るまでのプロセスを主体的に遂行する。研究の過程では、週1回の進捗報告・相談を通じて思考を深め、成果の質を高める。中間発表や最終発表では他者との対話を通じて視点を広げ、論文に加えてビジュアル資料やプロトタイプなど多様なアウトプットを通じた表現も奨励する。探究と表現の融合を通して、総合的なメディア実践力を養う。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「実験・実習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	情報メディアの社会的課題や表現の可能性に対する関心を持ち、自ら課題を発見し主体的に取り組む姿勢を評価する。計画性と継続的な実践力、誠実な研究態度も重視する。			15点
【知識・理解】	研究対象に関する理論・事例・技術の理解度を評価する。文献や先行事例を適切に参照し、専門知識を研究構想や分析に活用できているかが基準となる。		15点	10点
【技能・表現・コミュニケーション】	制作・分析に関する実践的な技能と、成果を言語・視覚・対話的に表現し伝達する能力を評価する。論理的構成と説得力あるプレゼンテーション力を含む。	10点	15点	
【思考・判断・創造】	課題設定から結論に至る過程において、論理的な思考、的確な判断、独創的な発想が展開されているかを評価する。社会やユーザーへの応答性も重視する。		35点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
本評価は、研究プロセスと成果の両面を総合的に捉え、各指標に基づき多面的に行う。論文や制作物といった最終成果だけでなく、中間発表や定期的な進捗報告も重要な評価対象とする。週に1度の報告・連絡・相談を必須とし、研究の進行状況や思考の変遷を可視化することが求められる。これにより、問題解決力や継続的な取り組みの姿勢も評価に反映される。研究の進捗に応じて、週1回の面談や報告書を通じて個別にフィードバックを行う。また、中間発表や提出物に対しては口頭および記録文書によるコメントを適宜提供する。最終発表・提出後は、成果全体に対する講評と振り返りの機会を設け、自己評価および今後の課題に繋がるよう支援する。				

○その他
卒業研究は長期的な計画のもとで取り組む必要があるため、早期の準備と継続的な進捗管理が重要である。提出期限前ではなく、余裕をもって作業を進め、指導教員から十分なフィードバックを受けられるように努めること。大学が定める論文・発表等の提出期限は厳守し、各自で責任を持って確認すること。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	卒業研究（Graduation Thesis） 松原 かおり	授業コード	P170314
学修内容					
1. オリエンテーション 卒業研究の意義、授業の進行計画、評価基準、必要な成果物について説明する。個人の研究のスタンスを明確にし、年間を通じた自律的な取り組みの重要性を確認する。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
2. 興味・関心の言語化 各自の関心領域を可視化し、研究の種となる問いを探る。ブレインストーミングやディスカッションを通して、探究の方向性を広げる。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
3. 先行研究・関連事例の調査 文献や既存事例を収集・分析し、自身の研究テーマに関連する知見を蓄積する。研究の独自性を確保するためのリサーチ力を養う。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
4. 研究テーマの確定と計画立案 リサーチをもとに各自のテーマを確定し、研究目的・方法・スケジュールを含む計画書を作成する。教員による個別指導も行う。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
5. 研究計画の共有とフィードバック ゼミ内で計画を発表し、相互に意見交換を行う。他者からの視点を受けることで、研究計画の精度と説得力を高める。（ゼミ室で行う）					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
6. 研究初期フェーズの実施（調査・制作など） テーマに応じて文献調査、制作実験、ユーザー調査等を開始。初期的なアウトプットを小さく試す段階。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
7. 初期成果の振り返りと再設計 初期的な調査や制作結果を整理し、今後の方針に反映させる。必要に応じて研究計画を修正する。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
8. 中間報告に向けた構成整理 研究の進捗をもとに中間報告用の資料を構成する。内容の明確化と論理展開の精査を行う。					
予習	研究の進行に必要な資料や先行事例を調べ、次回の面談や作業に備えておくこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間

○授業計画	科目名 担当教員	卒業研究（Graduation Thesis） 松原 かおり	授業コード	P170314
学修内容				
9. 中間報告準備(資料・プレゼン作成)				
図表やデザイン表現を含む報告資料を作成し、発表内容の検討を行う。プレゼン練習も実施。				
予習	これまでの研究成果を整理し、発表用資料の準備や伝えるべき要点の明確化を行うこと。			2時間
復習	発表練習やリハーサルのフィードバックをもとに、構成や表現の改善を図ること。			2時間
10. 模擬発表・フィードバック				
中間発表に向けたリハーサルを実施。教員および学生同士で講評・改善案の共有を行う。 (ゼミ室で行う)				
予習	これまでの研究成果を整理し、発表用資料の準備や伝えるべき要点の明確化を行うこと。			2時間
復習	発表練習やリハーサルのフィードバックをもとに、構成や表現の改善を図ること。			2時間
11. 中間報告最終準備				
フィードバックを反映させて資料を完成させる。発表順や質疑対応の準備を整える。				
予習	これまでの研究成果を整理し、発表用資料の準備や伝えるべき要点の明確化を行うこと。			2時間
復習	発表練習やリハーサルのフィードバックをもとに、構成や表現の改善を図ること。			2時間
12. 進捗の振り返りと整理				
中間報告直前の進行状況を点検し、発表に向けての最終確認を行う。要点の明確化に努める。				
予習	これまでの研究成果を整理し、発表用資料の準備や伝えるべき要点の明確化を行うこと。			2時間
復習	発表練習やリハーサルのフィードバックをもとに、構成や表現の改善を図ること。			2時間
13. 論点の再構成と発表準備				
研究内容を再構成し、発表構成を整える。質疑を想定し、要点を明瞭に伝える準備を行う。				
予習	これまでの研究成果を整理し、発表用資料の準備や伝えるべき要点の明確化を行うこと。			2時間
復習	発表練習やリハーサルのフィードバックをもとに、構成や表現の改善を図ること。			2時間
14. プレゼン練習と最終調整				
最終的なプレゼンテーション練習を行い、内容・スライド・時間配分の最終調整を行う。				
予習	これまでの研究成果を整理し、発表用資料の準備や伝えるべき要点の明確化を行うこと。			2時間
復習	発表練習やリハーサルのフィードバックをもとに、構成や表現の改善を図ること。			2時間
15. 中間発表				
全員による中間発表を実施。研究の進捗状況を発表し、教員・学生双方からの質疑応答と講評を受ける。				
予習	発表資料の最終確認を行い、時間配分や質疑対応を想定して発表に備えること。			2時間
復習	講評や質疑をふまえて、自身の研究の強み・課題を整理し、今後の展開に活かすこと。			2時間
16. 中間発表の振り返りと今後の計画				
中間発表で得た指摘や発見を踏まえて、研究計画の後半フェーズへの移行と再設計を行う。				
予習	中間発表で得た指摘や課題をふまえ、研究計画の後半フェーズを再構築する準備を行うこと。			2時間
復習	研究内容を再点検し、必要な修正・追加調査を明確にして後半の実践に備えること。			2時間

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	卒業研究（Graduation Thesis） 松原 かおり	授業コード	P170314
学修内容					
17. 分析・制作フェーズ					
夏季休暇中も含め、制作、検証、分析などを進行。仮説に対する応答を形にしていく段階。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
18. 制作・検証の進行と修正					
ユーザー検証や第三者からのフィードバックを得て、研究の方向性や成果物の精度を高める。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
19. 成果の構成・論文化の準備・論文執筆①(導入・背景)					
成果を論文にまとめるための構成案を作成。章立てや主張の論理的流れを確認する。					
研究背景、目的、問いなどの序論部分の執筆に取り組む。明確な問題提起が求められる。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
20. 論文執筆②(方法・経過)					
研究手法や実施内容の記述を行い、制作や調査プロセスを整理する。客観性と再現性が重要。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
21. 論文執筆③(分析・考察)					
得られた成果に対する分析と考察を行い、研究の意義や課題を明示する。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
22. 論文執筆④(結論・まとめ)					
研究のまとめ、今後の展望、社会的意義などを論じ、全体を収束させる。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
23. 論文・制作の最終確認・発表準備①(構成とスライド)					
最終発表に向けて内容の整理とプレゼン資料の作成に取り組む。視覚的表現も重視。					
文体、図表、レイアウト、引用などの体裁チェックを含めて、論文・制作物を完成に近づける。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間
24. 発表準備②(プレゼン練習・相談)・模擬発表・フィードバック					
発表練習と個別フィードバックを行い、発表の精度を高める。					
模擬発表を通じて内容・時間配分・伝達力を確認し、最終調整を行う。					
予習	前回の進捗や指摘をふまえ、次の作業内容や論文構成を事前に整理し、実施計画を明確にして臨むこと。				2時間
復習	授業内の助言や気づきをもとに、計画や内容を見直し、記録や準備を整えておくこと。				2時間

○授業計画		科 目 名	卒業研究（Graduation Thesis）	授業コード	P170314
		担当教員	松原 かおり		
学修内容					
25. 口頭試問会					
全員による発表を実施。質疑応答と講評を通して、1年間の研究成果を共有する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
26. 発表の振り返りと論文最終提出					
発表内容の振り返りと最終成果物の仕上げ。必要な修正を行い、論文を正式提出する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
27. 論文最終提出					
最終成果物の仕上げ。必要な修正を行い、論文を正式提出する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
28. 論文最終提出					
最終成果物の仕上げ。必要な修正を行い、論文を正式提出する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
29. 論文最終提出					
最終成果物の仕上げ。必要な修正を行い、論文を正式提出する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
30. 論文最終提出					
最終成果物の仕上げ。必要な修正を行い、論文を正式提出する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
31. 論文最終提出					
最終成果物の仕上げ。必要な修正を行い、論文を正式提出する。					
予習	発表資料やスライドの最終確認を行い、伝えるべきポイントを整理して臨むこと。				2時間
復習	質疑や講評で得た指摘を振り返り、研究内容や表現方法の改善点を明確にすること。				2時間
32. 総括と今後への展望					
1年間の研究活動を振り返り、得られた知見や今後の学び・進路への活かし方について共有する。					
予習					2時間
復習					2時間